

日本膜学会会長に就任して



会長 山口猛央（東京工業大学）

この度、岡村恵美子前会長の後を受け、日本膜学会の会長を務めさせていただくことになりました。日本膜学会に参加してから35年になりますが、日本膜学会をさらに発展させ、若い方や企業の方にも膜学会の良さを実感して頂けるよう努力いたします。

日本膜学会は生体膜と人工膜を包含し広く膜学を議論できる世界唯一の場であり、最も歴史のある膜に関する学会です。世界中の膜学の知識や情報が集まり膜学を深く展開する場です。また、膜学会では2023年7月9日より1週間、世界最大の膜の国際会議であるICOM2023を主催します。ICOM2023を成功させ、日本膜学会の存在感を世界に示すとともに、新たな膜研究者に入会いただき、学会を活性化させる機会にします。

1. 膜学と膜学会

世界的な水不足、エネルギー問題、後期高齢化社会のための医療技術など、膜は必要不可欠な技術です。緻密な生体膜の機構解明や分子レベルでの膜現象の解明、新しい膜やプロセスの開発、計算による膜設計など、膜学はどんどん深化しています。また、人工膜、生体膜、境界領域それぞれで新しいアイデアが生まれ、医療やエネルギー材料など膜の応用用途は広がっています。日本膜学会は世界の膜学をリードする立場であり、世界の膜学会と協力し、知識や情報を発信・共有し、膜研究者の交流を積極的に支援します。ICOM2023を機会にさらに発展させましょう。

2. 産官学連携

膜に関する産業では日本が世界をリードしています。産業部門委員会の活動を支援し、産業界で必要となる膜の基礎講座やシンポジウムを積極的に実施し、新しい応用に関するテーマも積極的に扱います。ICOM2023では、日本の膜研究・膜技術のレベルの高さをアピールするとともに、産官学で活躍する一人一人の膜研究者・技術者が世界から見えるようにアピールする場とします。

3. 若手膜研究者の参加とネットワーク作り

自由な発想で新しい膜学に挑戦する若手膜研究者を増やすことは、学会にとって必要不可欠です。若手膜研究者のネットワーク作りが始まりましたが、人工膜、生体膜、境界領域、企業研究者に広げていくためには、学会としてのサポートが必要です。ネットワークにより知識や共同研究の輪を広げ、年会、膜シンポジウム、その前後で若手膜研究者・技術者が深い議論ができる場や仕組みを作りましょう。また、情報部門委員会により、積極的に活動内容を発信します。

4. 膜学会年会・膜シンポジウム

膜学会年会は通常の発表に加えトピック的なシンポジウムを実施し、膜研究を広く展開する機会です。膜シンポジウムは討論を重視し、人工膜、生体膜の隔てなく、レビュー発表も交えて、膜学をさらに深める場です。両方とも、学生のポスター発表・表彰も合わせ、活発な議論ができる場です。また、今年度は11月20日から3日間「日本膜学会第45年会」・「膜シンポジウム2023」合同大会があります。ICOM2023で受けた刺激をモチベーションに、多くの皆様に発表、議論頂き、膜学をさらに広げ、深めて頂ければ幸いです。

5. 膜誌

膜誌の原著論文はオープン化しましたが、投稿から出版までの期間をさらに短縮し、タイムリーな内容が出せる雑誌とします。新しい企画や、持ち込みの総説、若手研究者からの総説も積極的に出版します。膜学の深化や新しい展開を学会員の皆様に迅速に届けます。

6. 最後に

新型コロナの影響は大分収まりましたが、学会運営はオンラインも用いて効率的に進める時代です。一方で、オンラインだけでは人と人との交流が希薄になり、対面での議論の大切さを痛感しています。学会に所属する皆様からご意見をいただきながら、効率化と交流のバランスをとり、皆様が集まりやすい学会にできれば幸いです。

世界的に膜学は注目されており、日本膜学会には大きなポテンシャルがあります。今後の日本膜学会の活動に対しまして、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。